

# 令和5年度 現職研修助成事業研修概要

防府市立牟礼南小学校

## 確かな学力を育む授業づくり

～主体的に取り組み、深い学び合いができる手立ての工夫を通して～

### I 研究の概要

#### (1) 研究主題について

##### 【確かな学力を育む授業づくりとは】

確かな学力を育む授業とは、他者との関わりの中で、これまで身に付けた知識や技能を活用し関連付けることで、未知のものを既知に導いていく授業だと考える。

このような授業を展開していくためには、読み書きや計算などの基礎的な力の定着はもとより、これまで以上に学びのプロセスを意識した授業構想が必要である。「この授業で何がわかったらよいのか、何ができたらよいのか」というゴールの姿を教師が明確にし、そこから有効な活動や発問を仕組んでいくこと、また「このような方法を使ったら解けた」「友達のこの発言から自分の考えが変わった」など学んだことを振り返りに表現できるような「分かる・できる」授業、確かな学力を育む授業に迫っていきたい。

##### 【主体的に取り組み、深い学び合いができる手立ての工夫とは】

主体的に取り組む授業とは、児童が学ぶことに興味や関心を持ち、自分が将来なりたい姿になるためにはどんな知識やスキルが必要か考え、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげることができる授業だと考える。

また、深い学び合いができる授業とは、児童同士の協働、教職員や地域の人との対話、先人の考えの活用を通して、自己の考えを深めることができる授業だと考える。

そのためには、導入で教材の提示の仕方を工夫したり、既習事項との違いを目で見分けるように工夫したりすることで、児童から疑問や迷いを引き出し、学ぶことへの意欲を引き出すことが考えられる。また、深い学び合いを支えるための聴き合いや伝え合いの場面づくりなど、児童が協働して課題解決を図ることができるような手立ても必要である。

#### (2) 研究の視点

##### 【研究の重点】

学力向上に不可欠なことは、子どもたちが学びを自分事として捉え、自ら「学びたい」という思いをもつことである。

そのため、主体的な学び、深い学び合いができる授業作りを研究対象とする。そして、めざす授業づくりに迫るために、次の三つの手立てを工夫していくこととする。

手立て①学びを深める手立ての工夫

手立て②学び合いを支える聴き合う場の設定・工夫

手立て③学習過程を自覚する、または意識の変容をうかがえるような振り返り

## 【授業における3つの手立てについて】

### 手立て① 学びを深める手立ての工夫

授業の導入で、「あれ?」「どうして?」という問いを引き出すために教材や課題の提示の仕方を工夫する。そして、既習事項との違いを確認したり、揺さぶったりする発問をすることで、「やってみたい」「確かめたい」「友達の考えを聴いてみたい」などの学習意欲や対話の必然性を生み出す。そこから、児童同士が協働して課題解決できるよう働きかけ、最終的に自分一人で課題解決ができるように学びを深めていきたい。学びを深める手立てを授業に取り入れる際には、「意欲が高まる」「協働したくなる」「獲得した知識を使いたくなる」といった観点から考えていきたい。

### 手立て② 学び合いを支える聴き合う場の設定・工夫

授業の土台となる手立てである。聴き合う関係を構築するために、友達の発言を聞き、

・繰り返す ・言い換える ・続きを話す ・批判的に思考してみる ・質問する ・付け加える

などの言語活動を繰り返し行う。聴き方・話し方スキルの習得については、子どもたちから出てきた見本となる話し方、聴き方、説明の仕方を価値付け、提示することで全体への浸透を図る。

教師が答えを提示するのではなく、児童の言葉で出てくるように日頃から関係づくりをしていくとともに授業の中でも効果的に関わり合う場面を設定していきたい。

### 手立て② 学び合いを支える聴き合う場の設定・工夫

○友達の発言を聞き、つなぐ

・言い換え ・繰り返す

・リレー説明 ・確認

○聞き方・話し方スキルの習得

・児童の良い発言を提示

○人間関係づくり

・よいところみつけ

場の設定

児童の見本の提示

教師の価値付け

### 手立て③ 学習過程や自己の意識の変容がうかがえるような振り返り

振り返りをすることは、授業における自分の学びや成長への気づきを促すことになり、より深い学びにつながると期待される。また、自己の学習への充実感が得られ、学習意欲の向上のきっかけとなる。さらに、教師が振り返りを見取ることで、児童の学習改善や教師の授業改善にも期待できる重要な取り組みである。

本校の主題である主体的に取り組んだことや深い学び合いができたことを自分で自覚するためには、自分が友達のどんな意見から解決法を見つけたか、見つけた解決策をどう応用したかが振り返られると良いと考える。そこで、振り返りの中に授業中に見つけた友達の良い意見や参考にした意見を明記させることで、自身の考えがどのように変化していったかを意識できるようにしていきたい。具体的には、「今日の授業で分かったこと」「友達の考えから学んだこと、友達の考えの良かったところ」「次からはどうするか」の3つを書けるようにする。

#### 【具体例】

「多角形の内角の和」を学んで

私は、五角形の時は、三角形と四角形に分けて考えたらいいと思いました。でも、〇〇さんの発表を聞いて、どんな形でも線を引いて三角形に分ければいいと思いました。例えば、三角形に分けると、180度かける三角形の数で内角の和が求められるので、どの形でもできるやり方だと思いました。次からは、この〇〇さんのやり方で求めていきたいです。今日は、いいやり方が分かってうれしかったです。

【目指す授業のイメージ】 45分で完結できるよう授業配分を確実に

過程	段階	学習活動・内容
導入	課題の意識化	既習内容の確認・復習 <b>手立て① 学びを深める手立ての工夫</b> 本時の課題を意識できる問いかけ 本時のめあてを児童とつくり、児童がつかむ。
展開	課題の解決	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1人学び</div> <div style="font-size: 2em;">↔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学び合い</div> </div> <b>手立て② 学び合いを支える聴き合う場の設定・工夫</b> ・ 既存の知識や技能、教材を活用して解決に向かう（1人学び） ・ 友達と話し合いながら、課題解決の方法を探っていく（学び合い） ・ 既習事項の復習だけでは1人学びが難しいと想定される場合は学び合いを先に行い共有し、児童が解決方法を理解した上で応用問題に取り組むことが考えられる。
終末5分	学習の振り返り	<b>手立て③ 学習過程や自己の意識の変容がうかがえるような振り返り</b> ・ 本時の活動を振り返りながら、獲得した学習内容や次時以降の課題を確認する段階。 ・ 友達のどんな意見から解決法を見つけたか、見つけた解決策を次にどうつなげるかが振り返られると良いと考える。 ・ 自力解決できた児童は、例題から応用問題に変化した際にどのように対応したかということや自分の助言で友達が分かるようになったことを振り返られると良い。

優先順位はない

## 2 研究の実際（三つの手立てから）

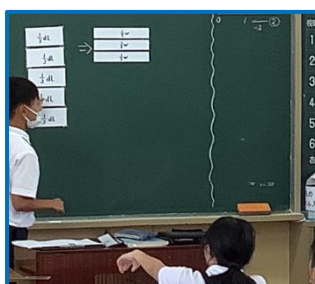
### （1）学びを深める手立ての工夫



【低学年ブロック「意欲が高まる」】導入の際に、挿絵を使って場面の場面設定を話し合いながら確認した後に、「かきが13こなっています。4こ□と、なんこのこりますか。」との問題文を□抜きで提示することで、本時で考えることを明確にすることと合わせて、めあてに向かおうとする子どもの意欲を高めることができた。



【中学年ブロック「協働したくなる」】問題提示後に答えを出した後に、「長椅子は何脚いるかな？」と問うと4つの意見が出された。4つのうちどれになりそうかを子どもたちに予想させて挙手をさせたところ、「先生」「だって…」等のつぶやきや隣のこと話し始めようとする姿があった。仲間と共に考え解決しようとする一端をうかがうことができた。



【高学年ブロック「獲得した知識を使いたくなる」】本時の山場となる場面で、前時でも扱った分数カードを使い、「 $\div 2$ をしてください。どうしますか」と問いかけた。「 $\div 2$ 」をすることは、半分にすることであることを全体で確認をすると、子どもたちは、カードを半分に折り曲げることを思い付き、カードと既習事項とを重ね合わせながら、分数 $\div$ 分数への理解を深めることができた。

## (2) 学び合いを支える聴き合う場の設定・工夫

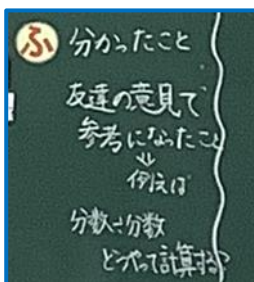


【低・中学年ブロック「ペアで確認」】1年生では、数図ブロックを使い、一人一人で13-9のやり方を考えた後に「お隣と『こうやったよ』って話してみてください」とペアで互いの考えを聞き合う場を設定した。3年生では、(1)の4つのうち1つをなぜ選んだかの理由について書かせた後、ペアで話し合う場を設定した。互いの考えを伝え合いながら、課題解決に向かう思考を促すことができた。



【高学年ブロック「ペアで学び合いからスタート」】6年生では、問題が提示された後に、数直線に数字を書き込んでから立式するという前時までと同様の流れで始まった。その際に、自力でできる子は一人学びから、不安がある子は仲間と一緒に考えながらのスタートとした。この手立てにより、全員が授業に参加しやすい状況を作ることができた。また、分かっている子にとっても学び直しの機会とすることができた。

## (3) 学習過程や自己の意識の変容がうかがえるような振り返り



【高学年ブロック「段階的に条件を示す」】6年生では振り返りの際に、3つの条件が示された。それは、「レベル1＝分かったこと」「レベル2＝友達の見えて参考になったこと(「例えば」を使って)」「レベル3＝これから分数÷分数の計算は、どうやって計算するか(気を付けること)」の3つである。仲間との関わり、学習内容の定着の確認、主体的な学びの促し等を行っていく上で、有効な取り組みませ方であった。

## 3 次年度に向けて

### (1) 振り返りを大切にした実践

- ・最も大きな課題として残ったのは、振り返りについてである。各自の研修の振り返りを見ると、書かせ方について触れている内容もあったが、一番は十分な時間確保ができていないことである。
- ・まずは、45分間のタイムマネジメントを全ての教員が責任をもってできるようになることが欠かせない。その上で、授業前に振り返りや学習内容の獲得場面となる山場をどこまで具体的にイメージできているかである。書かせ方に迷いがあるということは、単に書かせ方だけの問題ではなく、授業者がどこまで事前に教材研究できているかという本質的な部分が重要である。
- ・本校は、若手が多いのも現状であることから、次年度は、教材研究や授業づくりについての具体的な研修も行うことで、振り返りについても、子どもたちの学びがより充実し、主体的に学ぶ姿を促進できる取組みとなるようにしていきたい。

### (2) 理念は「学び合い」のまま、授業UDの視点を軸にしていく

- ・今年度の取組みにより、子どもたちの授業への参加度の高まりや思考を深めるきっかけ作り、思考を促すためや深めるための対話等については一定の成果が見られた。その中でも、授業UDの視点を取り入れた働きかけが有効であったように感じている。そこで、これまで大切にしている聴くことを重要視した「学び合い」については、同様に大切にしながら、次年度は授業UDについても研修に取り入れ、子どもにとっても教員にとっても分かりやすく効果のある実践にしていくことで、本校児童の学力を高める授業づくりに迫っていきたい。